

Tatsuta Kazuto

# 竜田一人



## 福島第一原子力発電所労働記

講談社  
(非売品)

福島第一原発で  
作業員として働いていた  
作者が描く渾身の  
シロモノ。

(1)

「モーニング」に新人賞  
MANGA OPEN 受賞作  
が掲載された直後から  
国内外で大反響を呼んだ  
話題作がついに単行本化。



# ▲▲ 竜田一人。プロフィール

大学卒業後、職を転々としながら、

売れない漫画家としても活動。

震災後、当時働いていた会社を辞し

被災地のためになる仕事に就くことを決意する。

福島以外にも被害の大きかった

宮城、岩手などの仕事も探したが

紆余曲折を経て福島第一原発で働くことに。

半年ほど働いたところで

会社の定める年間被ばく限量量に達したため

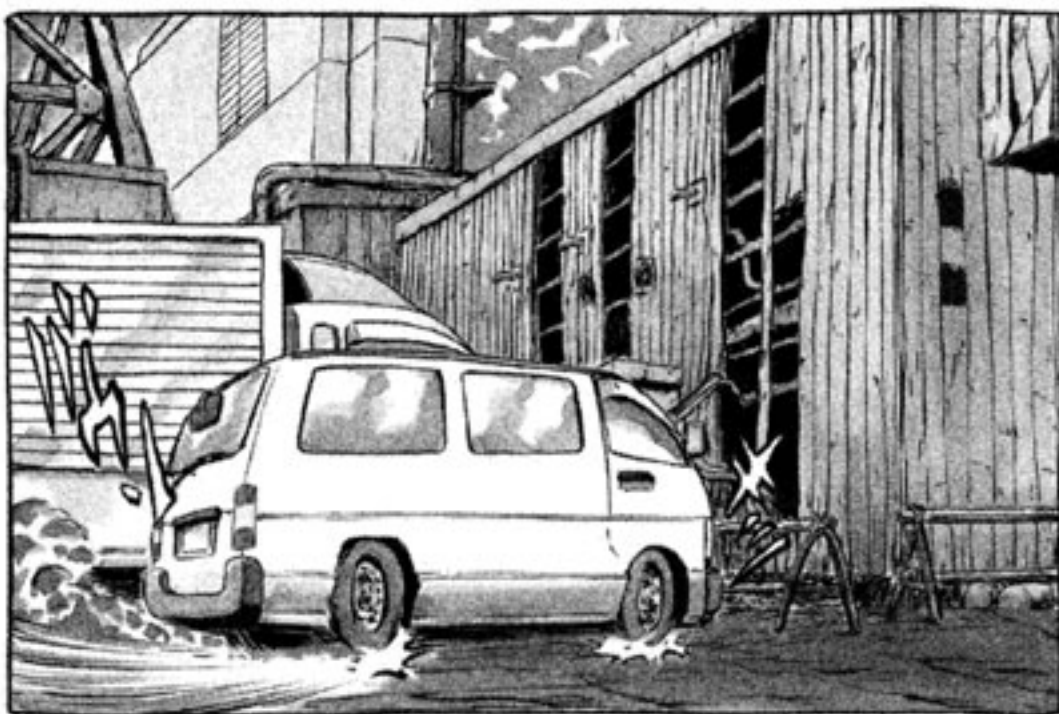
一旦、首都圏にある自宅に戻ったあと

見てきたものを漫画にしようと思い立ち、『いちえふ』を描き始める。

福島第一原子力発電所労働記

いちえふ

福島第一原発で  
作業員として  
働いていた作者が描く  
渾身のルポルタージュ。



満場一致で大賞受賞!!



森高タ次氏  
物書きの本質を体現し  
ているこの作品の迫力の  
前では、ただ頭の中を考  
えて何か高尚なことを描  
こうとしてる作品がちっ  
ぽけに見えてしまう。

◎審査員コメント

これは  
真実を暴く  
作品ではない

竜田一人

TDF  
竜田





第34回 MANGA OPEN 大賞受賞作!!

東村アキコ氏  
内容について、私がどう  
こう言えるような作品  
ではないが、淡々と読ま  
された。面白かった。

福島第一原子力発電所案内記

これが作者がその目で見た、  
「福島の実況」

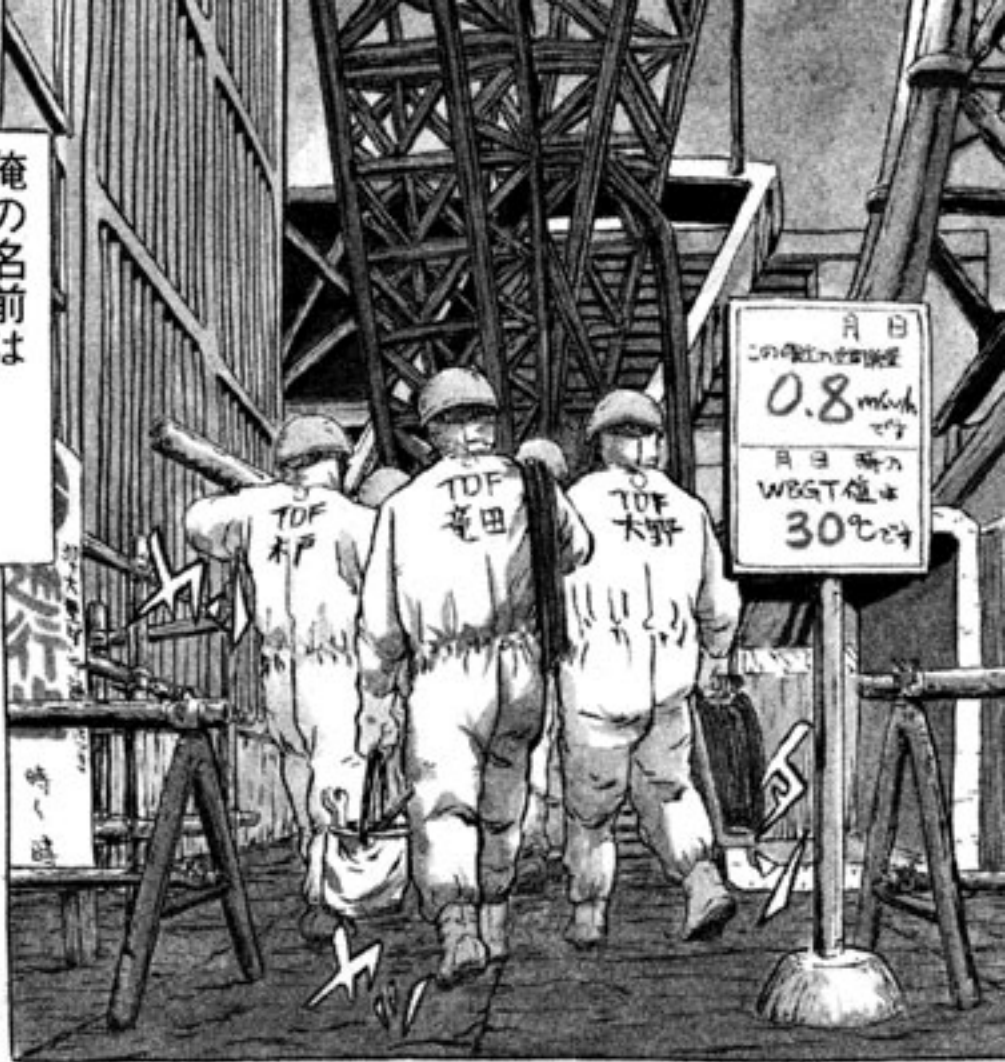




東京電力福島第一  
原子力発電所で  
働いている



俺の名前は  
竜田一人  
申し訳ないが仮名だ



今日は俺たちの職場  
1Fに皆様を  
ご案内しよう

1Fは  
「いちえふ」と  
読む

現場の人間 地元住民  
皆がそう呼ぶ 1Fを  
フクイチなんて言う奴  
はまずここにはいない

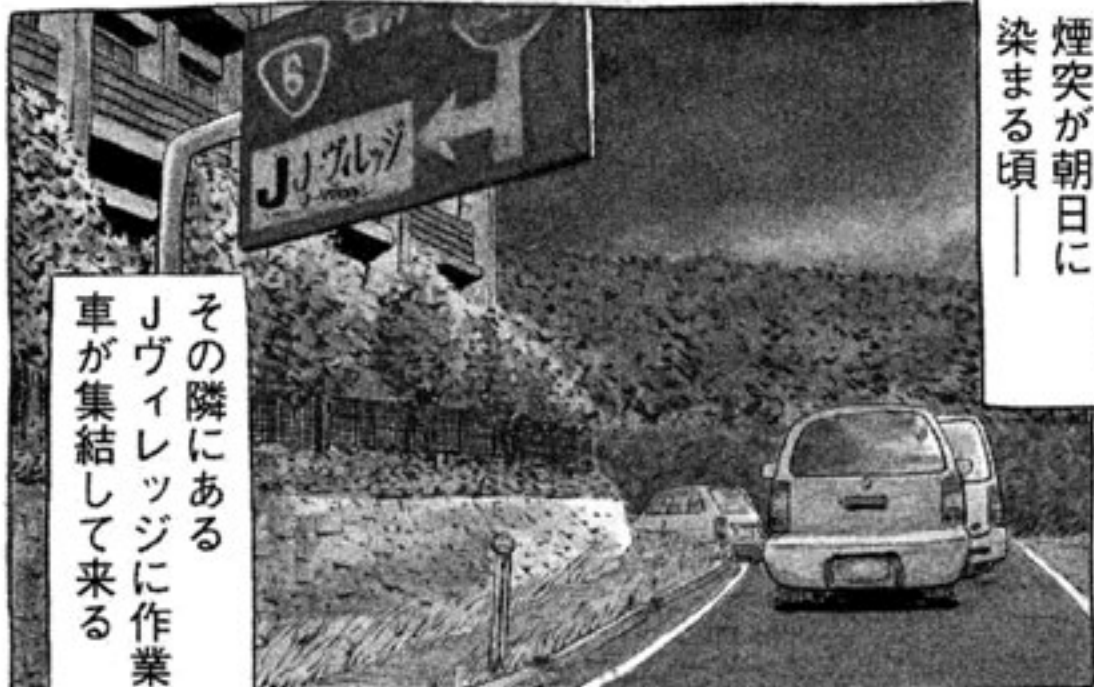


早朝――

ひろの  
広野火力発電所の  
煙突が朝日に  
染まる頃――



その隣にある  
Jヴィレッジに作業員の  
車が集結して来る





原発増設の際に  
東京電力が地元へ寄贈した  
サッカー合宿施設だが

今は1F収束作業の  
後方拠点 この  
ボコボコの駐車場も  
元は緑のピッチだった



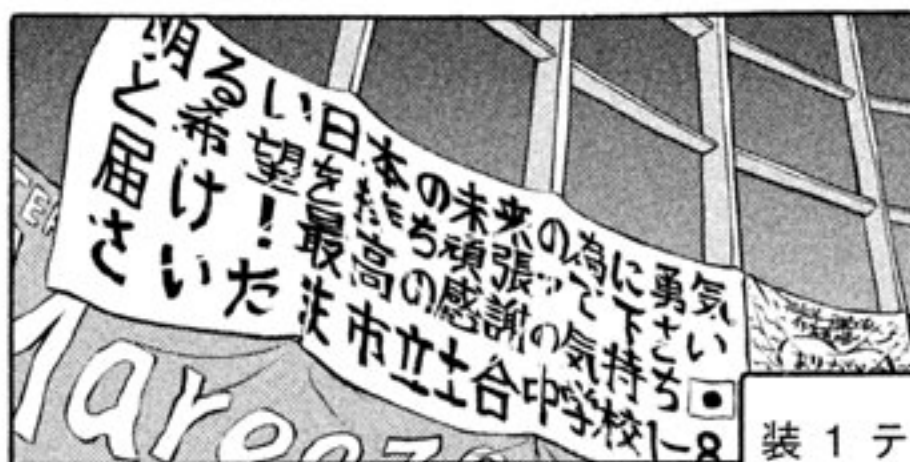
大野さん  
おはよう  
ございます

おう竜田  
おはよう

1F作業員のほとんどは  
地元の住人だ 警戒区域  
の外に避難しながら  
1Fで働く人も多い

おいっす

おう  
夜勤明けけえ  
おつかれ



まずは本館の  
中庭にある  
テント小屋で  
1Fへ行く  
装備を整えよう







入って  
右側に  
装備品一式  
がある



防護服は白と青が  
ある 1Fへの  
移動には青でいい



防護服には  
胸と背中に必ず  
所属会社名と  
氏名を書く



大体の協力企業には  
決まった略称があるが  
迷惑がかかると  
いけないのでこれも  
仮名にさせていただきます

靴下は  
重ね履きだ





そして綿手と帽子  
サージカルマスクを  
耳に引っ掛ければ

いちいち  
1F行き作業員の  
出来上がりだ

通称「青タイベック」  
(太って  
見える)

お弁当持参



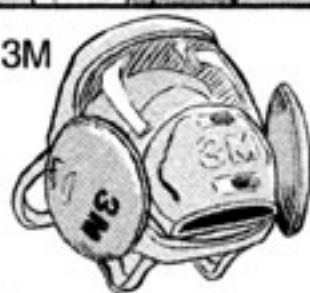
全面マスクを入れるレジ袋  
(今は中にはゴム手だけ)

靴カバーも  
忘れるな

次の建物で  
全面マスクを  
借りる



3M



シゲマツ



コウケン

3M



半面もある

マスクはメーカー  
が3社あり  
フィルターも  
ダストとチャコール  
の2種類がある



俺のお気に入りは  
このシゲマツ製  
建屋の中など  
線量や汚染の  
高いところは  
チャコール  
フィルター装着だ

マスクは消毒  
済みとはいえ  
使い回しだから  
臭いのキツイ  
ものがある



除菌スプレーや  
ウェットティッシュなどで  
よく拭いて行こう





出口で個人用線量計(APD)を  
借りて行く者もいるが  
俺たちはまだ後でいい

尚<sup>なほ</sup>この辺の装備やマスク・APD  
等の運用ルールはよく変わるし  
悪用されてもいけないので  
ここでは昨年(2012年)の時点での  
お話を描かせていただいている



※ 東京電力のこと

いよいよこの  
ロータリーから  
1Fへ出発だ

各企業の車輛・バス  
もしくは電力さんの  
協力企業バスに  
乗って行く



電力さんのバスには  
誰でも乗れるが  
防護服着用で必ず  
全面マスク携行だ

バスの中には  
汚染防止で一面  
ピンクのシート  
が張られている



ラッシュ時は  
乗りきれずに  
2台待ち  
なんてことも





Jを出て  
右へ曲がると  
国道6号線だ



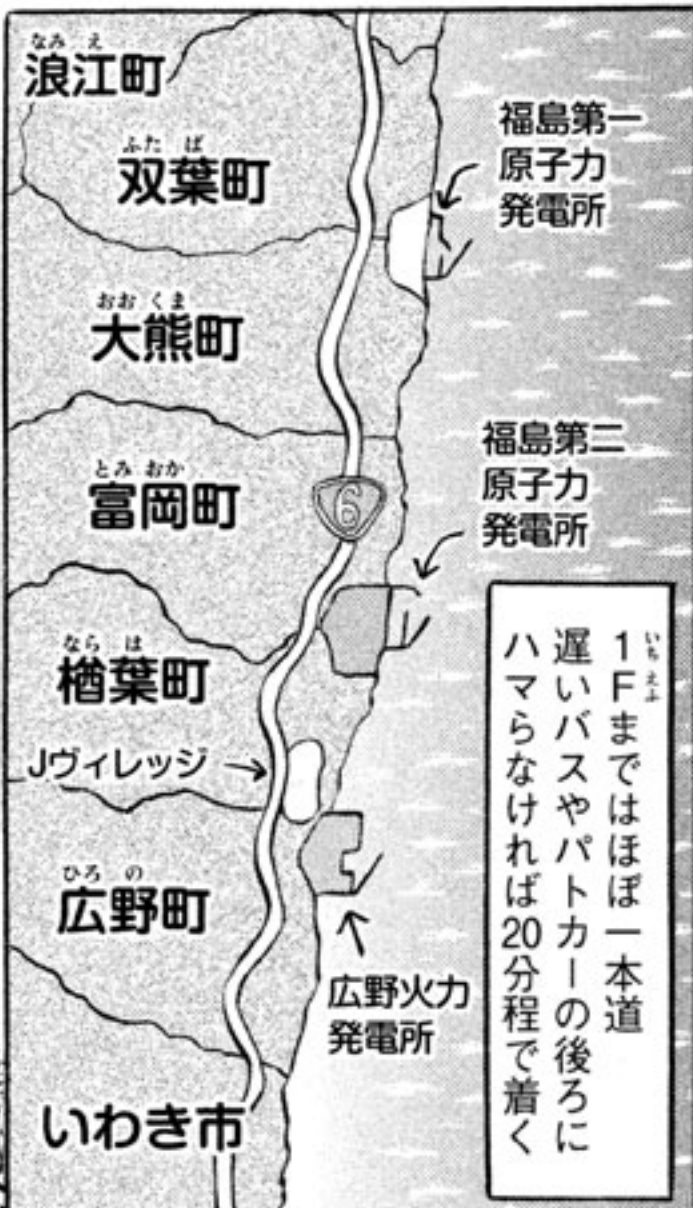
はい

揃ってるな  
行くべした

俺たちは会社の  
作業車で行こう  
これもビニールで  
養生済みだ

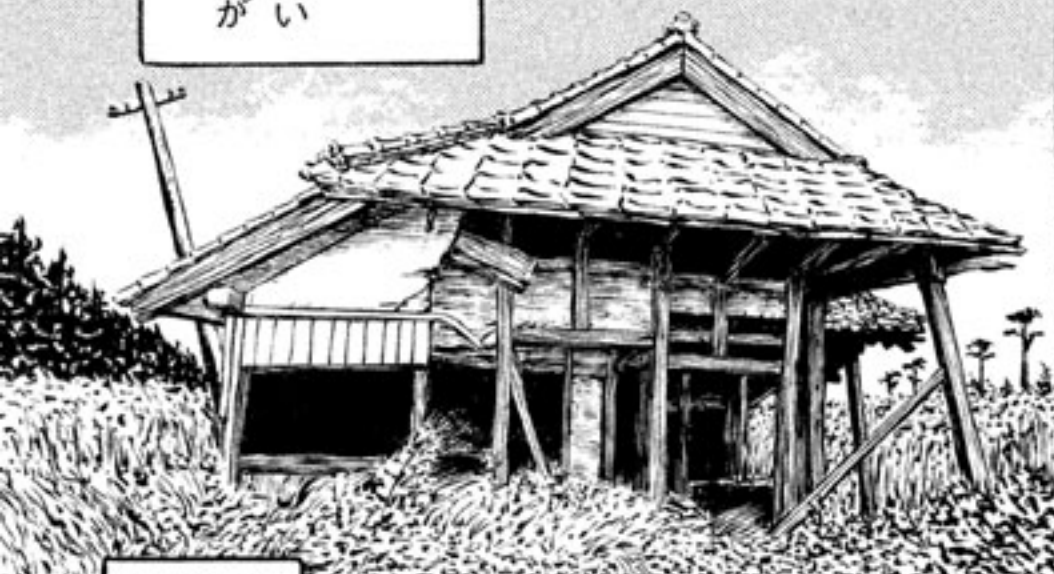


まず昨年(2012年)  
8月まで警戒区域  
だった楢葉町を通る



1Fまではほぼ一本道  
遅いバスやパトカーの後ろに  
ハマらなければ20分程で着く

国道からは  
見えないが  
沿岸部には  
まだ生々しい  
津波の爪痕が  
残っている



ここから信号は  
黄色の点滅に  
なる



そして富岡町との境  
にある検問を通して  
警戒区域の中へ





無人の富岡町内  
6号線沿いにも  
地震の破壊力を物語る  
建物が数多く見える



大熊町の  
大草原

セイタカアワダチソウが  
秋には一面の黄色い  
お花畑となる



綺麗だけつども  
これ全部  
田ンボなんだべし

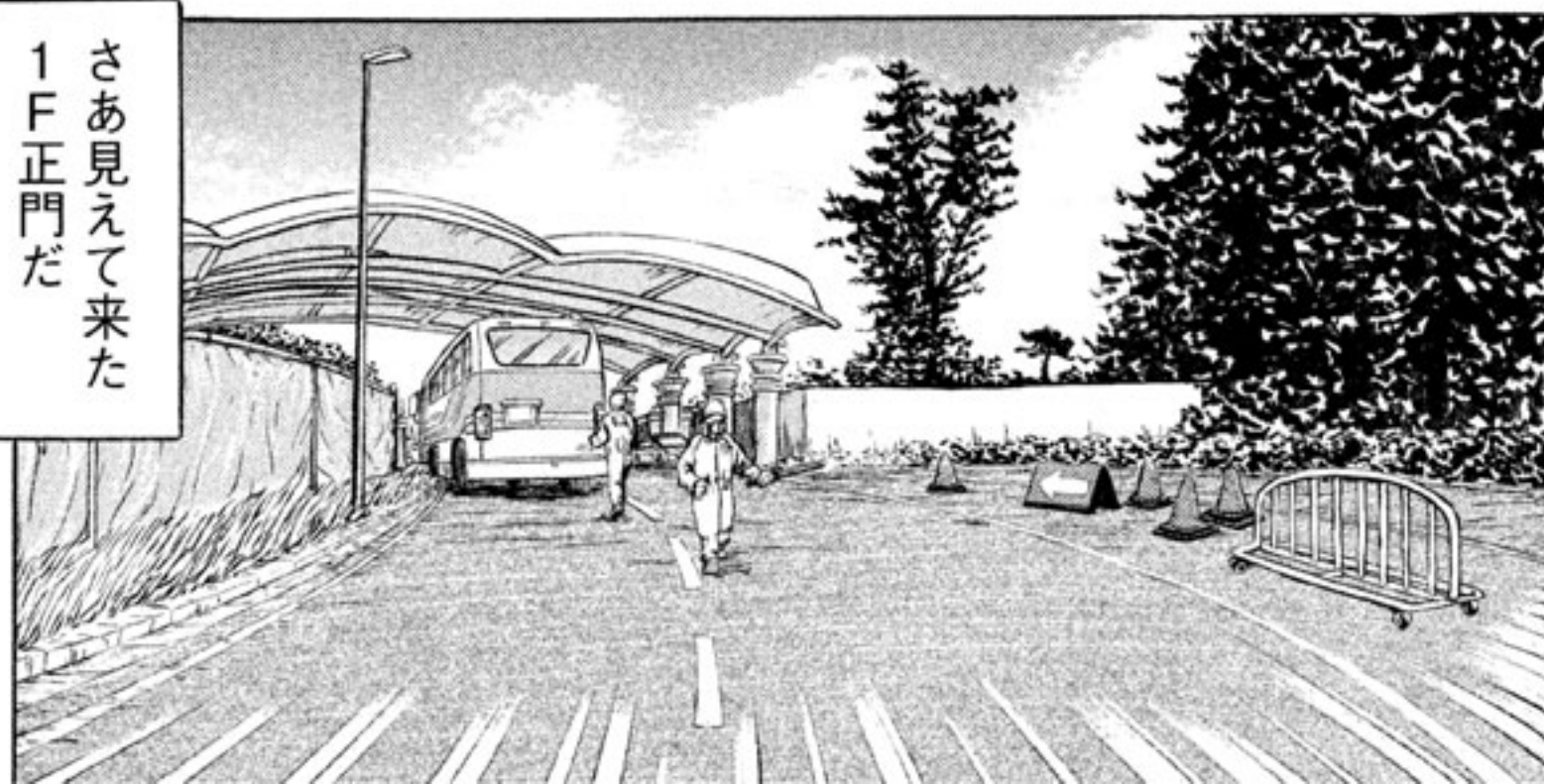
大野さんは  
大熊の人だ



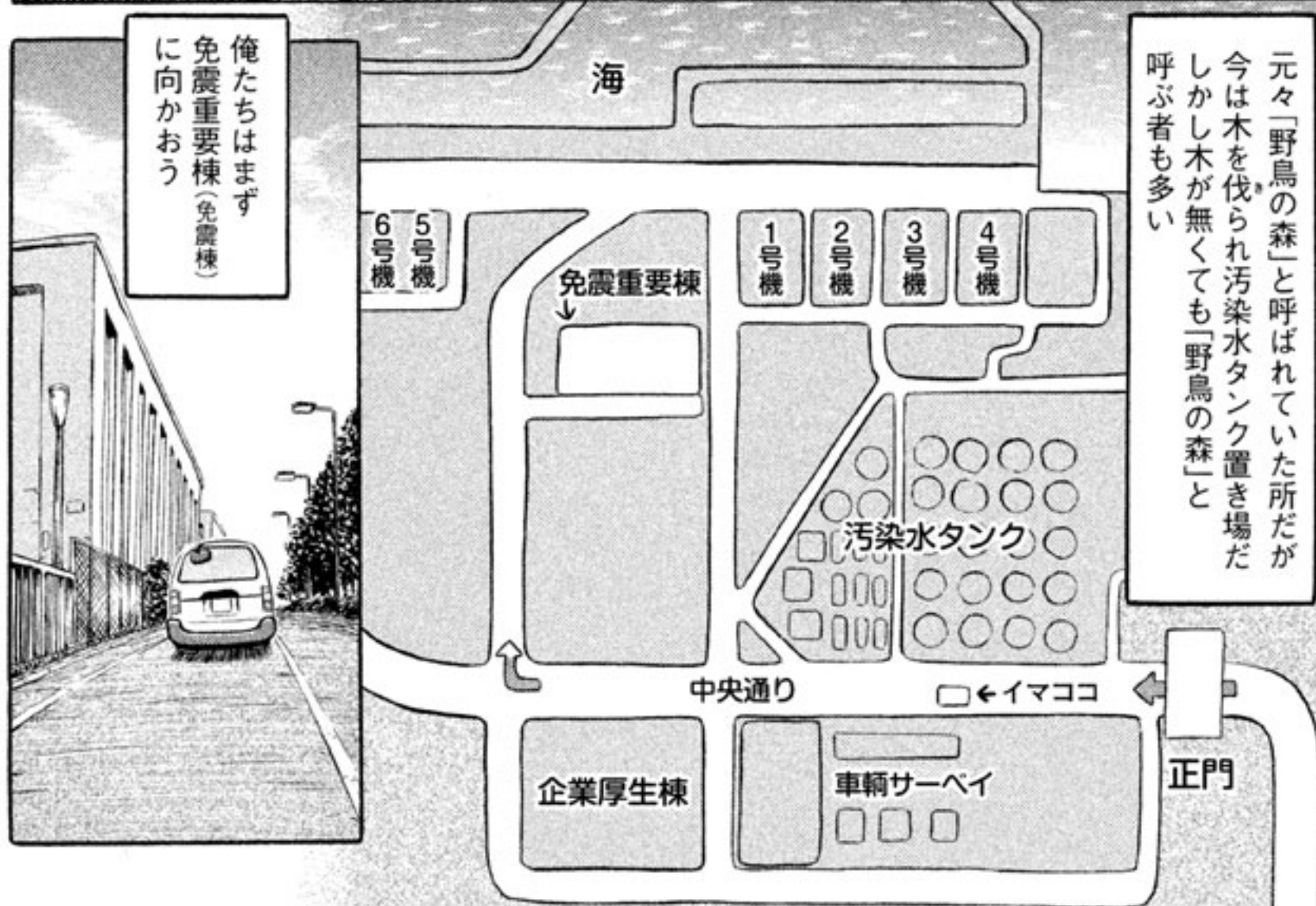




ここまで来ると点滅  
すらしていないが  
この信号を右折すれば  
1Fはすぐそこだ











うわ  
今日もいっぱい  
だっぺ

1・2号機煙突

いつも  
1F内は作業車輛で  
あふれ返っており  
駐車場所を探すだけで  
毎日ひと苦労だ

まったく  
頼むっぺよ  
電力さん

免震棟の出入り口は  
プレハブ小屋だ

外気の流入を防ぐため  
二重扉になっていて  
係員が開閉してくれる



よっ…と

まずここで  
敷居を跨ぎながら  
靴力バーを取る

そして  
ゴム手

おはよう  
ございます

こうしてようやく  
免震棟に入れる

↑  
床も壁も難燃ビニール張り





入ったら今度は  
現場用の装備を  
ゲットしよう

防護服は2枚  
現場用は白だ

「タイベック」という  
のはデュポン社の  
登録商標



防護服の下に着る  
長袖シャツと股引  
(紺 or グレー or 白)

他のメーカーの品も  
あるが結局どれも  
まとめて「タイベック」  
と呼ばれている

ゴム手も2枚だ  
忘れるな



続いていよいよ  
免震棟の本館に  
入る

この2階に  
テレビ会議等で有名な  
緊急時対策室があるが  
まあ俺たちには用は無い



← 0.8mSv(ミリシーベルト)のこと

それより右手の部屋で  
APDを借りよう

設定は？

コンマ8で

はいこちら  
どうぞー

設定値は？

作業者証と  
工事件名の  
バーコードを  
読み取らせると

1・8で





はい1・8  
ご安全に

どうも

その日の計画被曝線量  
に設定されたAPDを  
渡してくれる

APDはガラスバッジや  
IDカード等と一緒に  
首から下げておこう  
絶対に失くすな!

↓節電間引き点燈中

ここが免震棟の  
休憩所だ

各企業ごとに仕切られ  
養生ビニールの上に  
銀色のアルミマットが  
敷いてある

ここで現場用の装備に  
着替えるわけだが  
その前にトイレにだけは  
行っておこう

最後のチャンス

こっちもな

免震棟には喫煙室  
もある 中は  
ヤニで真っ黄色だ

ここはもう  
原子炉建屋中より  
空気悪かっぺ



今日の工程について説明します

線量も高いんで2班交代で……

ともかく1Fの現場はどこだって危険だ  
ミーティングは入念に  
そして装備も確実に

まず下着 APD等は  
胸のポケットに入れておこう

次にタイベック1枚目  
どれにも必ず名前を書く

続いてゴム手を1枚  
袖口をテープで  
目張りする

そしていよいよ  
全面マスクだ

ゴムのバンドは  
締め過ぎると  
頭が痛くなるから  
気をつける

息を吸い込んで  
マスクが顔に  
張り付けばOK

フィルターの  
穴をふさぐ

リーク(息もれ)  
チェックは超大事!

お願いします

おう

マスク周りの  
目張りは人にやって  
もらった方が確実だ



さらにその上から  
もう1枚タイベック

とゴム手  
これで……

おっと  
待った

線量の高い現場へ行く時は  
背中はこのシールを貼る



これで安全装備の完成だ

じゃ  
行って来ます

ご安全に

まだアノラックや防燃服などの  
最終形態もあるが  
ともかくこれが基本形だ

作業現場へ向かう出口は  
来た時とは別のプレハブ小屋

APDの確認  
お願いしまーす

APDの装着は  
鉛力バーで覆った事件  
があつてからチェック  
が厳しくなった

基本は  
直接見せる

テープで目張りしている場合は  
タイベックの上から触って確認  
してもらう

はい  
OKです

男同士でちょっと  
怪しい光景だ



次のゾーンでは  
靴を借りよう

靴は汚染されるので  
現場だけの使い回しだが

まあ皆が使い捨ての  
靴下を重ね履きしているので  
水虫の心配はない...だろう

短靴  
青



半長靴  
黄色



どれも安全靴

長靴  
黒or白



そして最後に  
ヘルメットを借りて  
二重扉から外へ

ご安全に――

聞き慣れない人には  
奇異に聞こえる  
かも知れないが  
俺は好きだ  
この言葉

ご安全に！



汚染靴で車に乗る時には  
必ず靴カバーを着ける

これが  
いちいち  
めんどいっぺし

そう  
言うな



よし  
出発

はい





海

1〜4号機方面へは  
朝来た中央通りに  
戻ってそこから  
海へ向かって一直線の  
この坂道を下る

大熊通り

免震棟

中央通り

中央交差点

ふれあい交差点

海の一本  
手前を  
右折

背後に見えるのは  
水素爆発で  
窓ガラスや壁が  
吹き飛んだ  
事務本館別館

そして……





左手には1・2号機の  
原子炉建屋がある

2号機  
↓

1号機は  
カバーで覆われ  
2号機は外観的  
には元のままだ



なので  
やはり……



圧倒的に  
迫力があるのは  
3号機だ



まあしかし  
いつ見ても  
凄っぺし

……

TDF  
竜田

TDF  
大野





ようやく  
ここまで...

俺は福島  
出身ではない

丁度

あの爆発の時  
首都圏にいて丁度  
仕事に困っていた俺は

福島第一原発の  
仕事を

求職

……  
本気ですか？

はい  
お願い  
します

高給と好奇心  
それにほんの少しは  
被災地の為という  
義侠心から





安全面についての不安は  
無かったと言えは嘘になるが  
今回の事故について放射線に  
ついて自分なりに調べてみれば  
一部のマスコミや「市民団体」が  
騒ぐ程のものではないと  
わかったし



逆に彼らの言う「フクシマの  
隠された真実」みたいなのが  
あるとしたらそれを見て来て  
やろうじゃないか  
ぐらいの気分になっていた

だが地元の人間でもない者が  
入り込むのは一筋縄では  
いかず 紆余曲折の果てに  
1Fで働けるように  
なったのは1年以上を経た  
2012年初夏のことだった



この辺のお話は  
また機会があったら  
お聞かせしたい

JヴィレッジのWBC(ホールボディカウンタ)

最初に入った業者は  
6次請け以下という  
多重下請け構造の  
最底辺に位置する会社で  
直接の工事作業ではなく  
管理業務だった為も  
あるが...



危険手当も  
出てねえっしょ  
これ

1Fまで来て  
日給8千円か...

こっから  
家賃一日千円  
引かれて...

やっとなれん  
たいねえ...

食費も自腹...

毎日仕出し弁当でな

同時に集められた仲間  
は全国から来ており  
それぞれ事情を抱えていて



夏が過ぎる頃には  
全員が辞めるか  
少し上の下請け会社  
に移るかしていった

じゃ  
ウチ来る？

そして俺も

実際の工事に  
かわれる  
現場へ

うん まあ  
あつけども  
ねえ…

お願いします

ようやくこうして  
防護区域内で  
特別手当も出る会社に

ただし…

当然ながら  
放射線量は高い

誰だ!?

俺ッス

APDは設定線量の  
1/6に達する毎に  
警告音を鳴らす  
1・8ミリシーベルト  
なら0・36ミリ毎だ



何回目ですか？

放射線管理員  
(放管)が常に  
作業員の被曝量を  
チェックしている

たしか  
4回ッス

今度は  
誰？

さあ

俺かあ？

狭い中で皆が鳴らすと  
誰のが鳴っているか  
わからない

ちよっと  
失礼

おう

タイベックの上から  
でもAPDの数値が  
読める機器も  
あったりする

ああ1・44  
4回目ッスね

じゃ  
今日はもう  
終わりだな

APDが4回鳴ったら  
現場を離れ免震棟に  
戻らなければならぬ

おーっ  
上がっぺえ

おう

はい

5回目は鳴りっぱなしに  
なるし計画線量を超えたら  
報告書だ

ハイ  
線量いっぱいです  
これから戻ります  
交代お願いします

汚れたタイベック  
を1枚脱いで  
ゴム手も取り  
また車に乗る時は  
靴カバーだ

どうせすぐには  
出て来ねべ  
ちよっと回ってくか

はい



せっかくだから  
1Fの裏側も  
ご覧に入れよう

1号機から  
大熊通りに戻り  
右折すると  
真正面が海だ

津波の後は  
このど真ん中に  
重油タンクが  
流されて来ててな

さらに右折して  
タービン建屋の  
前を通る

海側の建物はどれも  
下は津波 上は爆発で  
惨憺たる有り様だ

←こちら側が海

復水タンク

タービン建屋側にも  
津波で流された  
車がそのまま  
残されている

だけつども  
これでも砂利と  
鉄板敷いて線量  
下がったっべ

ああ  
よくここまで  
通れるように  
したもんだ



仮設の防潮堤に  
囲まれた廃棄物  
処理建屋等を  
グルッと回ると

4号機の  
前に入る

※ はかどった

※ 捨てた

おおー  
はがいったべや

上さ載ってたの  
全部ぶん投げた  
もんな

こいつが崩壊したら  
日本壊滅なんて言ってる  
連中にこの作業  
見せてやりてえもんだ





4号機側から  
坂を登って



野鳥の森  
タンク群の  
脇を通り



撤去部分

実際  
上階部分を  
撤去して  
4号機は  
見るからに  
身軽になった



お疲れッス

免震棟に  
帰って来ると  
交代の班が丁度  
支度をして  
出て来る  
頃合いだ



予定の工程までは  
やって来た  
後はよろしく

了解!

工具は  
奥の線量  
低いところに  
まとめて  
あります

はいよ

入り口外は雰囲気  
(空間放射線量)  
高いんで  
早く中さ  
入って下さい

作業内容や現場  
情報の引き継ぎは  
とても重要だ

行って来ます

ご安全に

何だかんだ言っても  
免震棟に無事帰って  
来れば正直ホッとする  
だが……



休憩所に帰り着くまでは  
まだ長い道中がある

お疲れ様  
です

朝の入り口とも  
さっきの出口とも違う  
現場帰り作業員用の  
入り口から中へ

ヘルメットを返し  
顔と手首の  
テーピングを外す

次のゾーンで靴を返し

どうも

タイベックを脱ぎ  
ゴム手と靴下も  
取ってから

ようやく  
全面マスクを  
外せる

ふう~~~~

冬でもマスクの下は  
汗びっしょりだ  
これが夏の頃と来たら……

綿手はまだ  
している

自己申告する

作業場所は？

4号  
外

そして最後に  
身体サーベイだ  
放射性物質の付着が  
ないかどうか測る

免震棟のサーベイは  
10レーン程あるが  
現場帰りの作業員が多い時間帯は  
大渋滞が発生する

綿手はここで捨てる

マスクはレジ袋

頭のとっぺんから  
爪先まで全身くまなく  
測ってもらおう

足裏  
お願いしまーす

汚染が出やすいのは  
全面マスクの  
特にフィルターだ

フィルター  
ちよっと高いんで  
交換して下さい

ありがとう



交換お願い  
します

まだ現場さ  
行けますか？



いえ  
帰るだけです

じゃ  
ダストで

お高い  
チャコールはもう  
付けてくれない

うわ  
汗が冷えて  
寒い

来た時に装備を  
取った場所で  
下着や帽子も  
換えて行こう



お疲れ様でした

そして  
借りた場所で  
APDを返す  
とー





その日の被曝線量を  
印刷したレシートが  
渡される

なんぼだった？

1・48（ミリシーベルト）ツス

大野さん残り  
いくつですか？

もう今年は  
あと5ミリも  
ねっぺ

年間の被曝限度は  
法律で決まっ  
ていて  
1年で50ミリ  
シーベルト  
5年では100  
ミリなのだが

多くの会社では年間  
20ミリかそれ以下に  
規定されている

今の現場終わって  
ギリギリだべ

これで春まで  
1Fにや入らんにな

年間線量は4月に  
リセットされる

この被曝限度量の問題は  
東電や下請けにとっては  
作業員の確保に影響するし

ただいまー

お疲れーツス

俺たちにとっても  
収入に直結する  
厄介な問題だ

さあ  
メシに  
すっぺ

お湯  
もらいまーす

休憩所には各社電気ポット等

持ち込んでいるから  
カップ麺ぐらいいは食える

ただし残り湯を  
捨てる所は無い  
スーブは全て飲みきれ！

水はペットボトル  
で配っているし  
冷水とお湯の出る  
サーバーもある

企業厚生棟や  
各元請け企業の  
休憩所には  
スポーツドリンクの  
冷蔵庫もある

昨年（2012年）夏にどこかの  
週刊誌が「冷たい水が飲めるのは  
東電社員だけ」なんて  
書いてたが意図的な誇張だ

週刊誌のインチキには  
こんなものもある

おい  
どうした!?

やはり昨年の夏  
厚生棟休憩所で  
一人の作業員が  
心肺停止となり

AED  
持って来お!

5・6号から  
救急車呼べ!

心臓マッサージや  
AED等の懸命な  
救命措置も空しく

5・6号機にある医務室から  
医師が駆けつけた時には――

死亡確認

これが  
「潜入ジャーナリスト」  
とやらの記事では

おお脈が  
戻ったっぺ

AEDで一時は  
蘇生しその後  
救急態勢の不備  
で亡くなった  
ことになって  
いるらしいが

いがった……

実際に救護に当たった  
者が証言している

んだな瞬間  
ありやしねっぺし  
カスカだってんでね  
(いい加減なこと  
言うな)

まあこの件は東電の発表  
でもいわきの病院に搬送  
してから死亡確認という  
ことになっているから  
東電としても1F内で  
死んだことにはしたく  
なかったのかも知れない

死因は心筋梗塞  
勿論被曝との関連はない  
だった俺たちは皆死んでいる  
収束作業5人目の  
犠牲者だった  
心よりお悔やみ申し上げます



メディアの報じる  
「フクシマの真実」なんて  
そんな話ばかりで  
俺たちは正直うんざりだ

さて  
メシも  
食ったし

ああ

この世の地獄みたい  
に  
言われるこの1Fで  
毎日こうしてのんびり  
メシ食って昼寝  
なんかしている

これもまた  
メディアではあまり  
報じられない  
「福島の実情」だ

東電OB有志の会のポスター

頼むぞ  
福一!!

お疲れ

ん……?

ただいまー

あ  
お疲れ様  
ですー

今日も  
どうにか  
終わったっぺ

ヨシ  
帰っぺ

お疲れした

帰りも青タイベック  
全面マスク携行だ

どうもー

お疲れ様  
でしたー

朝と同じ  
出入り口から  
免震棟を出て

帰りは綿手でOK

これですぐ  
帰れるかと思ったら  
まだ難関がある

さあ今日は  
どうだべ？

うわ  
混んでる

車輛サーベイだ

いちまふ  
1Fを出る車は  
全て汚染検査を  
受けなければならない

バスもダンプも  
重機もあるし  
作業帰りの車が  
多い時間帯は  
1時間待ち以上の  
大渋滞になる  
ことも  
疲れて帰る時に  
これはこたえる

だがこのサーベイ要員も  
渋滞の車から早く測れと  
言われたり早過ぎると  
ちやんと測ってないだろう  
と言われたり大変だ

ここで汚染が  
見つかった車は  
除染場で高圧洗浄

汚染がなければ  
出られるのだが  
まだ最後の関門が――



ああ  
まただっぺ

正門の出口は  
ゲートがひとつ  
しか無い上に  
汚染検査済証の  
半券を切って  
渡してくれるの  
だがその手間が  
かかるのだ

はい  
お疲れ様  
でした

どうもー

まさか世界が  
注目するこの  
福島第一原発で  
定規で紙切ってる  
とは誰も  
思わんにな

しかも  
ミシン目も無い  
ただのコピー用紙  
をねえ……

これでようやく  
1F脱出だ  
後はまた  
富岡の検問を通過して  
Jヴィレッジで荷物と  
身体のサーベイを  
受けて家に帰るだけ……

……なのだが  
まだ油断は禁物

ありがとうございました  
ご協力いたします  
ありがとうございます  
今日の出会いに感謝  
福島第一原子力発電所  
東京電力  
TEPCO

！







事故当初は餓死する等の  
悲惨な光景ばかりが  
目立っていたが



今でも生き残っている  
連中はさほど痩せて  
いるわけでもなく  
元気そうだ

ああ  
子牛が

めんこい  
もんだべ

よく見れ



耳にタグが  
付いてねっぺ

個体識別番号  
が印刷された  
タグが無い

事故の後に  
生まれたんだな

勿論奇形など  
見たことはない

元気だな



他の動植物も同様だ  
彼らはこの禁断の地でむしろ  
自由に逞しく生きている

世間からは この世の  
地獄みたいに言われ  
忌み嫌われることもある  
俺たちの職場だが

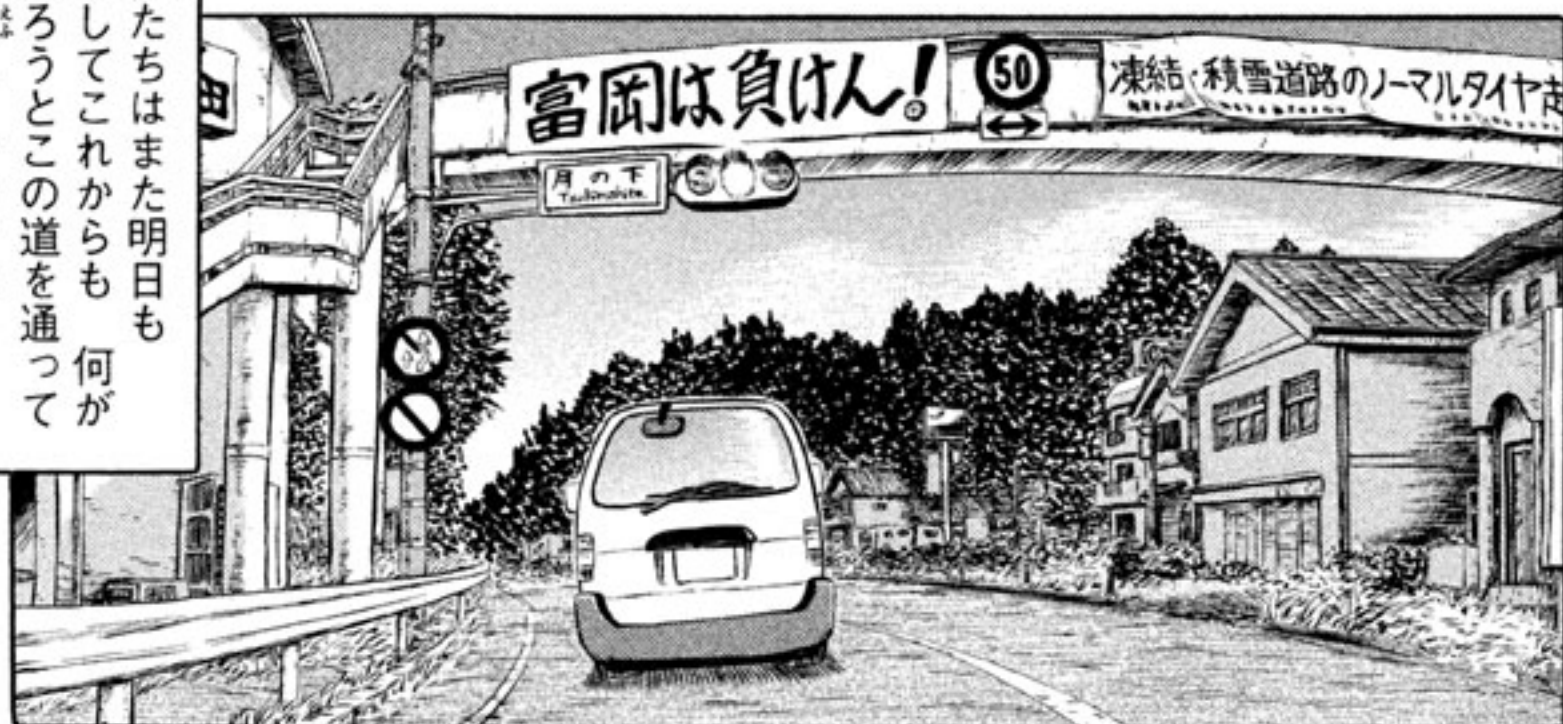
さ  
帰っぺし

はい

俺たちもまた(いろいろ  
言いたいことはあるが)  
この世界で誇りを持って  
生きている



俺たちはまた明日も  
そしてこれから何  
が  
あろうとこの道を通  
って  
1Fへとやって来る



俺たちが生きてこの目  
で  
その瞬間を見届けるこ  
とは  
ないのかもしれないが

いつか必ずこの職場を  
福島の大池から消し去  
る  
その日まで

